

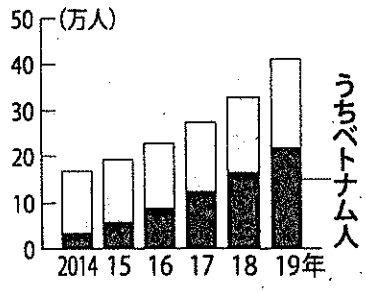
11/28 毎

# 過酷な労働 失踪者6倍

逮捕されたベトナム人の多くは就労先から失踪した技能実習生だった。実習生の事情に詳しい関係者によると、新型コロナウイルスの影響で失踪先でも仕事を失い、在留資格が切れてもベトナム行き航空便が減って帰国できずに苦しい生活を強いられている実習生が少なくないという。

1993年に始まった技能実習制度は発展途上国から最長5年間受け入れ、日本の技術を伝えるのが狙いだが、労働力不足を背景に日本の産業を実質的に支えている。出入国在留管理庁

技能実習生の人数



## 多額の借金 コロナ追い打ち

によると、2019年末時点の実習生は全国で約41万人おり、5年前の2.5倍。近年、特に急増しているのがベトナム人で、19年は約21万人で半数を占める。15年までは中国人がトップだったが、中国の経済発展に伴い賃金水準が向上し、日本で働くメリットは薄れつつある。

そうした中でベトナム人の受け入れが加速したが、失踪者も増えている。19年の実習生の失踪者数は14年の1.8倍となる8796人。うち7割がベトナム人で、14年比で6倍に増えた。失踪した実習生にはほぼ共通しているのが、来日前に抱いていた理想と現実のギャップだ。貧しい農村部の出身者が多く、「少しでも家族に楽をさせたい」と日本を目指すが、来日前、母国の送り出し機関に多額の手

料を払う。ベトナム政府の通知によると、3年間で3600万円(約38万円)以下と定められているが、悪徳業者の介入などで裏で水増しされ、100万円前後の借金を背負って来日するケースが後を絶たない。十数万円程度の手取りを家賃などの生活費や仕送り

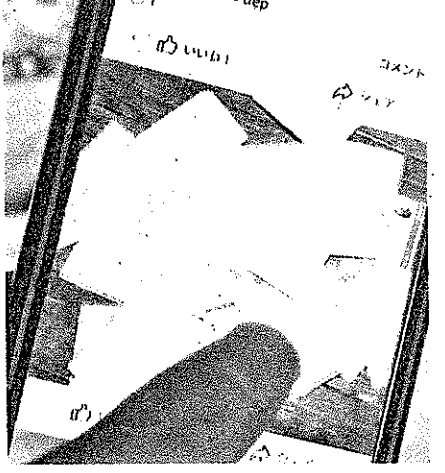
に充てると、手元にはほとんど残らない。神戸大学の院の齊藤善久准教授(ベトナム労働法)は「来日前に聞いた話と違つと我慢できない上に借金を返せずに計算が狂つ。お金が必要になって失踪して、少しでも稼げる不法就労をしてしまふ」と話す。過酷な労働環境も失踪を生む要因だ。「受け入れ先にはしっかりした企業もあるが、一部の企業では低賃金で暴力や暴言があふれ、人を『物』のように扱っている」。ベトナム人の元技能実習生らを保護し支援している在日ベトナム仏教信者会長のティック・ナム・チーさん(42)はこう指摘する。技能実習制度では原則として自由な転職が認められていない。さらに今、コロナ禍が追い打ちをかけた。群馬県警に入管法違反などの容疑で逮捕された13人の一人は18年から溶接の工場

## SNSで不法就労あっせん

行政の相談窓口にとどりつくこともできず孤立を深める中で「失踪」を選んだベトナム人実習生たちのほとんどは日本にいる同胞を頼る。その入り口となるのがSNSだ。住居だけでなく、不法就労先まであっせんするケースがある。「埼玉で週28時間の仕事」「部屋、譲ります。月3万8000円。6カ月間無料」――。ベトナム語で

「兵士」を意味する「ボドイ」と呼ばれるフェイスブックのグループ上には、怪しげな情報が飛び交う。SNS上では、不法就労する際に必要な偽造在留カードの売買も横行している。ベトナム人留学生や技能実習生の就労に関する相談・支援などに取り組むNPO法人「アジアの若者を守る会」(埼玉県熊谷市)によると、フェイスブックに投稿した業者に返信して証

「ボドイ」と呼ばれるフェイスブックのグループには大量の在留カードの写真が投稿されている。19日、妹尾直道撮影



明写真を送ると、就労可能な在留資格の「定住者」などと書かれたカードが郵送で届くという。群馬県警が10月26日に逮捕したベトナム人13人のうち4人はその後、偽造在留カードを所持した容疑で再逮捕され、うち2人が起訴された。